

視点の違いによる医療コミュニケーションギャップを描くマンガ賞 「第2回 医療マンガ大賞」受賞作品決定！



新型コロナ対策に取り組む
医療従事者のエピソードも！！

大賞1作品+入賞8作品

横浜市では、市民の皆様にも医療を他人ごとではなく「自分ごと」と捉えていただけるよう、民間企業等と連携しながら医療広報を実施する「医療の視点」プロジェクトに取り組んでいます。

このプロジェクトの一環として、医療に関するコミュニケーションギャップの改善を目的に、患者や医療従事者それぞれによる“視点の違い”を描くマンガ賞「医療マンガ大賞」を昨年度に引き続き開催しました。2回目となる今回は、新型コロナ対策に取り組む医療従事者の想いや視点の違いを描くテーマなど9つのエピソードを協力企業と連携して用意しました。また、審査員には、多数のヒット作を持つ人気マンガ家・おかざき真理先生とインターネットを中心に様々な医療情報を発信する医師・山本健人先生が新たに加わりました。結果、募集期間内に **78本** の作品応募（第1回は55本の応募）があり、その中から大賞1作品・入賞8作品を選出しました。

第2回の大賞は「人生の最終段階」をテーマに、患者視点から戸惑いや葛藤、家族への想いを優しい絵のタッチで描いた、ちえむさんの作品に決定しました。

オンライン審査会での様子

上段左から、おかざき真理氏、こしのりょう氏、山本健人氏
下段左から、佐渡島庸平氏、筑丸志津子氏、井上祥氏



受賞作品は、明日の20日（金）午後5時より、医療マンガ大賞特設WEBサイト上にて審査員からのコメントとともに全編ご覧いただけます。

【医療マンガ大賞特設WEBサイトURL・QRコード】

■URL

<https://iryo-manga.city.yokohama.lg.jp/>

■QRコード



【裏面あり】

1 大賞・入賞作品の紹介

特設 WEB サイトで全編お読みいただけます。 <https://iryō-manga.city.yokohama.lg.jp/>

テーマ1「人生の最終段階・事例A」

大賞

患者視点



ちえむさん

従事者視点



ばつさん

テーマ2「人生の最終段階・事例B」

患者視点



たむら蓮々さん

従事者視点



mekamekaさん

テーマ3「コミュニケーションの難しさ」

患者視点



ともへさん

従事者視点



ワダシノブさん

テーマ4「2020年の医療現場」

医師視点



はな奈さん

看護師視点



戸山知子(しるこ)さん

テーマ5「心がふるえたエピソード」

※テーマ5は医師視点のみ募集

医師視点



chikuさん

※なお、審査員からの要望により、ここで紹介している大賞・入賞以外に、13作品を特別賞として特設WEBサイト内で紹介しています。あわせてご覧ください。

2 審査員総評コメント（順不同）



佐渡島 庸平／(株)コルク代表取締役（編集者）

今年は全体的にレベルが高くて、どれも読みごたえがありました。普通に漫画誌で連載を持てるレベルのものが多く思ったので、この賞はまだ始まって2回目だけど続けていくとどんどん良い作品が集まっていきそうな気がします。賞を選考していて楽しかったです。



こしの りょう（マンガ家）

多数の力作のご応募ありがとうございました。原作付きの漫画は、どう作者の自分事にできるか？が、私の評価基準でした。予想以上にそういう作品が多くて、読み応え十分な作品が集まり、評価をつけるのにかなり悩みました。接戦でした。賞に入った作品はもちろん素晴らしかったのですが、次点以降の作品も力がある作品が多かったので、ぜひこれからの次回作も読んでみたいです。第3回でまたお会いできればと！！



おかざき 真里（マンガ家）

今回初めて審査させていただきました。みなさんプロ並でレベルがとても高く、全ての作品で泣かされ考えさせられました。審査中も「ひとつ選ばなきゃいけないけれど他のも世に出して広く皆に読んでもらおうよ」という作品が多くあり、特別賞という形で選んでいます。医療とは、コミュニケーションとは、それを漫画にすることとは…を漫画家として逆に勉強させていただきました。



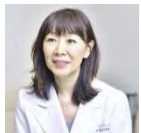
山本 健人／SNS 医療のカタチ（医師）

今回は大変レベルの高い戦いで、評価をつけるのに苦労しました。惜しくも入賞されなかった方々の作品も素晴らしいものばかりでしたので、また次回、挑戦していただけたら幸いです。私は医師の立場として、横浜市の「マンガを使った医療情報発信」という試みを応援する意味で、「啓発要素」がいかに上手く、かつ押し付けがましくない形で盛り込まれているか、という観点で見させていただきました。



井上 祥／(株)メディカルノート代表取締役・共同創業者（医師）

非常にレベルが高く、力作ぞろいで選考は良い意味で大変苦労するものでした。審査における議論も大変充実かつ楽しいもので、審査員の皆様からの「視点」の違いは自身も大変勉強になりました。横浜市医療局「医療の視点」とは2017年から関わってきましたが、医療マンガ大賞という医療情報にタッチポイントを作るための素晴らしい企画と共に発展したことを嬉しく思います。応募者ならびに関係者の皆様には深く感謝申し上げますと共に第3回医療マンガ大賞にも期待しています。



筑丸 志津子（医師）




参加してくださる方も増え、第1回以上に広がりが出てきているように感じます。その分審査も大変でしたが、多くの素晴らしい作品のおかげで悩みつつも楽しく審査をさせていただきました。マンガだからこそ、普段の診療では体験できない、患者さんからの視点で医療現場をとらえ直す良い機会となりました。多くの方に読んでいただければ嬉しく思います。



城 博俊（横浜市副市長）

まず、昨年度を超える多くの方に本市の施策へ参加していただけたことに、心より感謝いたします。どの作品も大変すばらしく、マンガだからこそ読み通せ、そして関心を向けてもらえるということ、私自身も体験できたように思います。作品を通じて医療を身近に感じていただけるきっかけになればと願っています。WEBサイトでは、横浜市の取組なども紹介していますのであわせてお読みください。

3 協力企業等からのコメント（順不同）

企業／媒体	コメント
株式会社 メディカルノート 	メディカルノートからは「コロナ禍で奮闘する 2020 年の医療現場」をテーマに、ダイヤモンド・プリンセス号の対応を指揮した横浜市立大学の竹内一郎先生、後藤隆久先生のインタビューからエピソードを提供しました。情報はいくら正確でも届かなければ意味がありません。タッチポイントとして、マンガはとても有効な手段です。応募者の皆様は「2020 年の医療現場」の漫画製作を通して、医療における「視点の違い」をより多くの皆様に伝える工夫を凝らして下さったことに深く感謝申し上げます。
朝日新聞 	今回初めて看取りの現場のエピソードを提供しました。はたして、どのくらい応募があるのか、どんなマンガになるのか・・・不安と期待で見守ってまいりましたが、思っていた以上にたくさんのご応募があり大変うれしかったです。そして、レベルの高さに圧倒されました。エピソードを自分のものとして考え、想像の翼を広げて描いていただけたことが伝わってくる作品ばかりでした。受賞作の一部は、朝日新聞、朝日新聞デジタルでご紹介します。より多くの読者に、皆さんの力作が届くお手伝いできればと思っています。
日経メディカル 	今回、医療マンガ大賞のパートナーとして参加し、たくさんのお応募作品をじっくりと読んで審査するという貴重な経験をさせていただきました。上手な作品は、ほんの1本の線で、ちょっとした色遣いで、読み手の心を動かすすごいパワーがあることを知りました。普段、マンガを扱うことは少ないのですが、今回は入賞作を雑誌とウェブサイトに掲載します。我々の読者である医師や医療従事者からどのような反響があるか、楽しみです。
CareNet 	ケアネットを日頃ご利用いただいている医師・医療者の方々に、“心がふるえた医療現場のエピソードを漫画にしてもらおう”というなかなか得難い体験を提供できたことに感謝しています。候補作品を読ませてもらい、審査委員の先生方のオンライン審査の様子を聞いていて、同じエピソードが漫画という形をとることでいろいろ変わるのだから、と感動しました。医療と漫画をつなぐ架け橋として、さらに盛り上がっていくことを祈念しています。

（参考）医療マンガ大賞 概要

同じ出来事でも、患者と医療従事者では受け取り方や感じ方が異なることに着目し、各々の視点からの捉え方をマンガとして描くことで、**視点の違いに互いに気づき、共感を促進**することを目指して昨年度より始めた取り組みです。今年度の取組（第2回）は9月17日から10月15日まで作品を募集しました。なお、第1回の受賞作品もWEBサイト上でご覧いただけます。



同じ世界を、違う視点で描くマンガ賞

（参考）医療の視点



「医療への視点が少し変わることで、異なる気づきが得られ、行動につながる」をコンセプトに平成30年10月から取組をスタートしています。民間企業等との連携や、市民の皆様の関心事にフォーカスすることで、より印象に残りやすく、伝わりやすい広報に様々な切り口で取り組んでいます。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/iryonoshiten/iryonoshiten.html>

お問合せ先

医療局医療政策課情報企画担当課長 小川 亨 Tel 045-671-4813